# 令和３年度　公益財団法人こころすこやか財団　事業報告書
## ～目　次～


◆公益財団法人　こころすこやか財団の運営

理事会・評議員会の開催

◆公益事業１：障害者・高齢者・認知症者が安心して暮らせる地域づくり事業

（1）障害者・高齢者・認知症者を支援する事業

- ➢ 一般相談支援事業/地域活動支援センターⅠ型事業/指定地域相談支援事業
  - 地域生活支援センター青明舎
- ➢ 指定計画相談支援事業
  - 特定相談支援事業所青明舎
- ➢ 障害者就業・生活支援センター事業（雇用安定等事業）/青森県障害者就業・生活支援事業
  - 障害者就業・生活支援センターみさわ
- ➢ 指定共同生活援助事業
  - こころすこやか財団グループホーム　１番館・２番館・３番館・５番館
  - グループホーム青風荘
- ➢ 指定自立訓練（生活訓練）事業/宿泊型自立訓練事業
  - 障害者生活訓練施設青山荘
- ➢ 指定障害者就労移行支援事業（未実施）
  - 事業所名未定
- ➢ 指定（介護予防）認知症対応型通所介護事業
  - 結び家
- ➢ 指定居宅介護支援事業
  - ケアプランセンターまゆすい
- ➢ 認知症事例検討会
- ➢ 若年性認知症総合支援事業
  - 青森県若年性認知症総合支援センター
- ➢ メンタルヘルス事業
- ➢ 青森県若年性認知症実態把握事業

（2）障害者・高齢者・認知症者に関する普及啓発事業

- ➢ 障害者の作品展示
- ➢ 障害者・高齢者・認知症者の福祉に関する研修会、講演会、イベントの開催
- ➢ 高齢者・認知症者を対象とした介護予防等に関する講習会、健康教室等の開催
- ➢ 法人後見の実施及び成年後見制度利用に関する支援
- ➢ 県市町村その他関係機関に対するもの忘れ検診機器の貸し出しと講師派遣
- ➢ 関係団体と連携した認知症者の屋外徘徊を想定した模擬訓練の実施

◆収益事業１

自動販売機等の設置及び不動産貸付事業及び給食サービス事業

# ◆理事会・評議員会

報告担当者　代表理事　松倉　典子

【報告概要】
精神疾患及び精神障害の予防並びに治療に係る研究に関する活動と、障害者や高齢者の社会生活全般に関する支援活動を行うとともに、心の健康を普遍化して偏見をなくした心豊かな社会づくりを目指すため、適正な法人の運営を行った。

【報告項目】
①理事会の開催
②定時評議員会・臨時評議員会の開催

【報告内容】
①理事会の開催
理事会を２回開催した。

| | 開催日 | 議案 |
|---|---|---|
| 第１回理事会 | R3. 6. 3 | ● 令和２年度事業報告について承認を受ける件<br>● 令和２年度決算報告について承認を受ける件<br>● 令和３年度定時評議委員会の招集について承認を受ける件 |
| 第２回理事会 | R4. 3. 7 | ● 令和４年度事業計画（案）について承認を受ける件<br>● 令和４年度収支予算（案）について承認を受ける件<br>● 令和３年度補正予算（案）について承認を受ける件<br>● 令和４年度 DaiDai 建物の購入並びに銀行からの借入について承認を受ける件<br>● 令和４度資金調達及び設備投資の見込みについて承認を受ける件<br>● 令和４年度旧ＧＨあおばの建物取壊し、及びすこやか広場フェンスの撤去設置について承認を受ける件<br>● 令和４年度役員等関連取引について承認を受ける件<br>● 令和３年度第２回臨時評議員会の招集について承認を受ける件<br>● 令和４年度旧青明舎土地の売買について承認を受ける件 |

②定時評議員会・臨時評議員会の開催
定時評議員会の他、臨時評議員会を２回開催した。

| | 開催日 | 議案 |
|---|---|---|
| 定時評議員会 | R3. 6. 18 | ● 令和２年度事業報告について承認を受ける件<br>● 令和２年度決算報告について承認を受ける件 |
| 第１回<br>臨時評議員会 | R4. 3. 25 | ● 令和４年度事業計画（案）について承認を受ける件<br>● 令和４年度収支予算（案）について承認を受ける件<br>● 令和３年度補正予算（案）について承認を受ける件<br>● 令和４年度 DaiDai 建物の購入並びに銀行からの借入について承認を受ける件<br>● 令和４年度資金調達及び設備投資の見込みについて承認を受ける件<br>● 令和４年度旧ＧＨあおばの建物取壊し、及びすこやか広場フェンス撤去設置について承認を受ける件 |

## ◆地域生活支援センター青明舎／特定相談支援事業所青明舎

報告担当者　センター長　森　富茂子

【報告概要】

障害者及び家族からの来所相談・電話相談・訪問相談を行い、生活全般・医療・日常生活上の悩み事等へ、必要な情報の提供及び助言、解決を講じ、関わる機関との連絡調整やケース検討を行うことで解決に努めた。医療と連携し、入院・退院時に関わって、障害者の体調維持支援を行った。令和３年度は、新型コロナウイルス感染流行の影響から対面で接する機会を減らさざるを得ない状況が続き、行事、プログラムの実施が計画通りに提供できなかった。感染防止を大前提にしながら、障害者が安心して地域生活を送るために、現状で出来る支援を行った。

八戸市は、障がい者相談支援事業者連絡会議の運営に携わり、新郷村は、新郷村障害者地域自立支援協議会委員として参加、今年度から階上町障害者自立支援協議会委員委託を受け、地域の現状を伝える役割を担った。

【報告項目】

①相談支援事業
②地域活動支援センターⅠ型事業
③指定特定相談支援事業　（サービス利用支援・継続利用支援）
④指定一般相談支援事業　（令和元年 11 月１日より休止）
⑤事業所移転について
⑥職員のサービスの質の向上を目指した事業所内研修の実施

【報告内容】

①相談支援事業

１）相談支援事業

訪問、来所相談、電話相談にて以下の相談に応じた。

- 福祉サービスの利用援助に関すること
- 社会資源を活用するための支援に関すること
- 社会生活力を高めるための支援に関すること
- 権利擁護のために必要な援助に関すること
- 専門機関の紹介に関すること

令和３年度は新型コロナウィルス感染流行の影響により、対面で相談を受ける来所相談数が減っているのが特徴である。しかし例年通り、不安が多い利用者様が安心して継続した地域生活を送られるよう、必要性を十分考慮して同行支援や関係機関との連絡調整、個別ケア会議を実施した。委託市町村には毎月実績報告書を提出し、状況把握に役立て必要時に連携した。

<table>
<tr><th>月</th><th>行動報告</th></tr>
<tr><td>随時</td><td>
<table>
<tr><td>支援内容</td><td>年間延べ利用件数</td></tr>
<tr><td>訪問</td><td>290 件</td></tr>
<tr><td>来所相談</td><td>954 件</td></tr>
<tr><td>同行</td><td>46 件</td></tr>
<tr><td>電話相談</td><td>1,439 件<br>(夜間電話含む)</td></tr>
<tr><td>関係機関との連絡調整</td><td>2,243 件</td></tr>
<tr><td>個別ケア会議</td><td>1 件</td></tr>
</table>
訪問、来所、同行、電話相談等の対応</td></tr>
</table>

２）相談支援機能強化事業

相談支援機能の強化を図るため、一般的な相談支援事業に加え、相談支援事業が適切かつ円滑に実施されるよう、関係機関に専門的指導、助言を行った。

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| 随時 | 必要に応じ、相談支援事業者に対する専門的指導、助言を行う。 |

３）地域自立支援協議会（個別ケア会議）への参加

八戸市障がい者相談支援事業者連絡会議は、オンラインで研修会を開催した。
新郷村は、新郷村障害者地域自立支援協議会委員として書面議決に参加した。
階上町は、今年度からはしかみ障害者プラン(階上町障害者計画及び障害者福祉計画・障害児福祉計画)作成に参加した。

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| R3. 5. 27<br>R3. 7. 28 | 八戸市障がい者相談支援事業者連絡会議事務局会議 |
| R3. 10. 27 | 八戸市障がい者相談支援事業者連絡会議<br>これからの相談支援について<br>～楽しく相談支援をするために～ |
| R4. 3 | 新郷村障害者地域自立支援協議会　書面議決 |
| R3. 11. 24<br>R3. 12. 22 | 階上町障害者自立支援協議会 |

４）入居等支援事業

賃貸契約による一般住居を希望しているが保証人がいない等の理由により入居が困難な方、各市町村が運営する住宅入居者に、必要な調整等の支援を行った。

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| 随時 | 関係機関との連絡・調整、地域生活の支援、緊急時の対応・支援<br>※登録者：８名<br>※年間延べ利用件数：65 件 |

利用登録者が１名増え、利用件数が前年度比１１件増となっている。

5）成年後見制度利用支援事業
成年後見制度の利用が認められる知的障害者又は精神障害者に対し、申立て等について、各市町村と連携を取りながら支援する。

②地域活動支援センターⅠ型事業
１）プログラム活動の企画・運営
活動室を開放し、社会生活に必要なスキルの維持・向上を図るプログラムを実施。

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| 4月 | 年間活動スケジュールの作成 |
| 毎月 | プログラム活動月間予定表の作成 |
| 通年 | 活動室の開放、メンテナンス |

２）余暇活動（行事、イベント）の企画・運営
生活のしづらさを感じやすい障害者や、引きこもり等、既存の社会資源を利用できない層の相談窓口となり、障害者と地域社会の交流を図った。
行事・イベントについては、コロナ感染流行時は中止として対応した。実施の際は感染防止を徹底した。

| 月 | 行動報告 | 参加数 |
|---|---|---|
| 4月 | 行事企画無し | |
| 5月 | アロマワックス作り | 中止 |
| 6月 | 多肉植物ブーケ作り | ２名 |
| 7月 | 行事企画なし（すこやか祭り） | |
| 8月 | 染物体験 | 中止 |
| 9月 | レジン箸置き | 中止 |
| 10月 | 苔玉作り | ３名 |
| 11月 | 指編み体験 | ３名 |
| 12月 | 行事企画なし（もちつき大会） | |
| 1月 | コロナ感染拡大防止の為行事企画なし | |
| 2月 | ちぎり絵手紙作り | 中止 |
| 3月 | コロナ感染拡大防止の為行事企画なし | |

３）障害者サポーター養成、障害に対する理解促進を図る為の普及啓発活動
医療・福祉及び地域の社会的基盤との連携強化のための調整、障害に対する理解促進を図る為の普及啓発活動の事業を実施した。
障害者サポーター養成講座は、八戸学院大学とリモートで実施し 19 名が参加。
精神障害者の地域支援、権利擁護・権利侵害について学ぶ機会とした。

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| R3．4 | 年間活動スケジュールの作成、障害者サポーター登録、サポーターデータ管理表作成 |
| R4．2．7 | 八戸学院大学でサポーター養成講座リモート開催<br>短期大学部介護福祉学科１年生　11 名<br>人間健康学科 1～4 年生・教員　計７名<br>短期学部幼児保育科教員　１名　　参加者合計　19 名 |

4）ライフサポート

日常生活の支援、日常的な相談への対応、日常生活の質の向上と問題解決のための援助及び情報提供を実施。

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| 4月 | 定期訪問者　訪問スケジュール作成 |
| 随時 | 訪問、来所、同行、電話相談等の対応、定期訪問 |
| 通年 | 入浴、洗濯、インターネット、食事作り、緊急時対応（オンコール） |

| 支援内容 | 年間延べ利用件数 |
|---|---|
| 入浴 | 219 件 |
| 洗濯 | 58 件 |
| インターネット | 1 件 |
| 食事作り | 0 件 |
| 夜間電話 | 451 件 |

コロナ感染流行時期に活動室を閉館するなど対応していたことも影響し、利用件数は前年度に比べて減少している。

③指定特定相談支援事業

サービス利用計画の作成、事業者との連絡調整及びサービス等の利用状況のモニタリングを行い、利用者が安心して障害福祉サービスが受けられ、目標に近づくよう支援した。

コロナ禍においても、新規利用支援13名、継続支援数16名増となった。

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| 随時 | 相談支援・サービス等利用計画作成・サービス担当者会議実施<br>モニタリング実施・作成料請求業務 |

登録者数・実績表

| 月 | 新規(利用支援) | 継続(継続支援) | 新規登録者数 | 登録解除者数 |
|---|---|---|---|---|
| 4月 | １０名 | ２２名 | 2名 | 2名 |
| 5月 | 5名 | ２６名 | 3名 | 0名 |
| 6月 | １０名 | ２２名 | 1名 | 0名 |
| 7月 | 8名 | ２６名 | 1名 | 2名 |
| 8月 | 6名 | ２２名 | 1名 | 2名 |
| 9月 | １０名 | １９名 | 2名 | 0名 |
| １０月 | １２名 | ２２名 | 2名 | 3名 |
| １１月 | 5名 | ２２名 | 0名 | 0名 |
| １２月 | １０名 | １９名 | 2名 | 0名 |
| 1月 | 6名 | １５名 | 0名 | 0名 |
| 2月 | 6名 | １７名 | 0名 | 0名 |
| 3月 | 8名 | ２３名 | 6名 | 3名 |
| 合計 | ９６名 | ２５５名 | ２0名 | １２名 |

④指定一般相談支援事業

365日・24時間で支援する体制を維持することが難しくなったことが理由で、令和元年11月1日より事業休止としている。

１）地域移行支援

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| 随時 | ・住居確保その他の地域生活に移行するための支援に関する相談<br>・地域生活への移行のための外出時の同行<br>・体験宿泊<br>・地域移行支援計画の作成 |

２）地域定着支援

居宅において単身等の状況において生活する障害者等に対して、当該障害者等との常時の連絡体制を確保し、障害の特性に起因して生じた緊急の事態等において相談に応じる。

⑤事業所移転について

令和3年9月1日、地域生活支援センター青明舎・特定相談支援事業所青明舎は、田面木赤坂16−8に移転している。

⑥職員のサービスの質の向上を目指した事業所内研修の実施

| 月 | 行動計画 |
|---|---|
| R3．7 | 糖尿病とコレステロールについて |
| R3．10 | 仕事の効率と接遇 |

地域生活支援センター青明舎　令和3年度市町村別地活利用実績数(名)　　令和4年3月31日現在

| | 身体 | | 知的 | | 精神 | | 発達 他 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 八戸市 | 1 | 0 | 5 | 3 | 37 | 28 | 1 | 4 | 44 | 35 |
| | 1 | | 8 | | 65 | | 5 | | 79 | |
| おいらせ町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| | 0 | | 0 | | 3 | | 0 | | 3 | |
| 南部町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| | 0 | | 0 | | 2 | | 0 | | 2 | |
| 五戸町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| | 0 | | 0 | | 1 | | 0 | | 1 | |
| 階上町 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| | 1 | | 0 | | 2 | | 0 | | 3 | |
| 田子町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | |
| 新郷村 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | |
| 合計 | 2 | 0 | 5 | 3 | 43 | 30 | 1 | 4 | 51 | 37 |
| | 2 | | 8 | | 73 | | 5 | | 88 | |

地域生活支援センター青明舎 市町村別地活登録者数(名)　　令和4年3月31日現在

| | 身体 | | 知的 | | 精神 | | 発達 他 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 八戸市 | 1 | 0 | 5 | 4 | 50 | 43 | 1 | 5 | 57 | 52 |
| | 1 | | 9 | | 93 | | 6 | | 109 | |
| おいらせ町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 3 | 3 |
| | 0 | | 0 | | 6 | | 0 | | 6 | |
| 南部町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 1 | 0 | 0 | 6 | 1 |
| | 0 | | 0 | | 7 | | 0 | | 7 | |
| 五戸町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| | 0 | | 0 | | 2 | | 0 | | 2 | |
| 階上町 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| | 1 | | 0 | | 2 | | 0 | | 3 | |
| 田子町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | |
| 新郷村 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | |
| 合計 | 2 | 0 | 5 | 4 | 63 | 47 | 1 | 5 | 71 | 56 |
| | 2 | | 9 | | 110 | | 6 | | 127 | |

# ◆障害者就業・生活支援センターみさわ

報告担当者　センター長　坂下　優子

【報告概要】

就職を希望する障害者、職場不適応により離職した障害者や離職のおそれがある在職中の障害者に対し、障害者就業・生活支援センターにおいて、就業及びこれに伴う日常生活、社会生活上の支援を行うことにより、障害者の職業生活における自立を図ることを目的とした。また、生活支援担当職員が支援対象者の家庭等や職場を訪問し、生活上の相談等に応じ、就業及びこれに伴う日常生活又は社会生活に必要な支援を行うことにより、障害者の就労継続を図ることを目的として運営した。令和３年度はコロナウイルス感染拡大を受け、昨年同様、通常の業務実施が難しく会議・研修の参加等に大きな影響が出ている。実施方法を様々に工夫し業務を行った。

【報告項目】

① 雇用安定等事業
② 生活支援等事業

【報告内容】

① 雇用安定事業

1）障害者の就業支援

就職に向けた準備支援（職業準備訓練、職場実習のあっせん）、求職活動の支援、職場定着支援、事業所に対する障害者の障害特性を踏まえた雇用管理に関する助言、関係機関との連携、調整を行った。

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| 通年 | 職場実習場所の開拓、確保、職場実習の実施、事業所への説明、利用者への説明、短期職場実習制度の利用、求職活動支援、職場定着支援 |

2）障害者の就業支援からみる生活支援　※②生活支援等事業と連動

生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の日常生活の自己管理に関する助言、地域生活、生活設計に関する助言、関係機関との連携、調整を行った。

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| 通年 | 家庭・職場・実習先への訪問巡回、職場定着支援、利用登録の意志確認、在職者交流会 |

3）目標件数の達成状況

| 目標件数設定項目 | 令和3年度目標値 | 令和３年度達成値 | 達成率 |
|---|---|---|---|
| 支援対象障害者数（人） | 310人 | 344人 | 110% |
| 職業準備訓練及び職場実習のあっせん件数（件） | 20件 | 21件 | 105% |
| 就職件数（件） | 25件 | 31件 | 124% |

＊支援対象障害者数は年度末に登録希望確認を実施し、１８人の取消希望あり。次年度の開始時は326人でスタートすることとなる。

4）各関係機関との連携、情報交換、報告

事業が円滑かつ効果的に行われるように関係機関と連絡を密にし、連携体制を構築した。
＊コロナウイルスの影響で例年実施している各行事・会議等が中止や縮小傾向。
当センターの事業は感染対策に留意しながらできるだけ実施するよう心掛けた。

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| R3．4．30 | 第１回障害者就業・生活支援センター連絡協議会参加<br>（オンライン開催） |
| R3．6．12 | 第1回在職者交流会 |
| R3．6．17 | 第1回障害者就業・生活支援センターみさわ事業連絡会議実施 |
| R3．6．17 | 第1回3ハローワーク定例会開催 |
| R3．7．17 | 第2回在職者交流会 |
| R3．7．21 | 進路講話会（青森第二高等養護学校） |
| R3．7．27～ | 四者面談（七戸養護学校）参加 |
| R3．7．28～ | 四者面談（青森第二高等養護学校）参加 |
| R3．8．10 | 四者面談（八戸高等支援学校）参加 |
| R3．8．27 | 第２回障害者就業・生活支援センター連絡協議会参加<br>（オンライン開催） |
| R3．9．27<br>～R3．10．5 | ステップアップ講座開催 |
| R3．9．27 | ピアサポート活動（ステップアップ講座と共催） |
| R3．10．17 | 第３回在職者交流会開催 |
| R3．10．28 | 令和３年度上北地域農福連携研修会参加 |
| R3．11．9 | 障害者理解促進研修開催（三沢市） |
| R3．11．11～12 | 第2回3ハローワーク定例会開催 |
| R3．11．15 | 優良事業所見学会（オンライン）参加 |
| R3．12．4 | 第４回在職者交流会実施 |
| R3．12．10 | 第３回障害者就業・生活支援センター連絡協議会、都道府県経験交流会議参加（オンライン開催） |
| R4．2．25 | 第４回障害者就業・生活支援センター連絡協議会参加 |
| R4．3．9 | 企業座談会開催（オンライン） |
| R4．3随時 | 移行支援会議（七戸養護学校、青森第二高等養護学校、八戸高等支援学校、青森第二養護学校）参加 |
| 適宜 | 特別支援学校生徒、企業実習の巡回協力実施<br>ハローワークとのチーム支援会議実施<br>職場体験年間プログラム実施（年６回企画、うち３回実施）<br>地域自立支援協議会（三沢市・十和田市）参加 |

5）啓発活動

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| R4．2 | 障害者雇用モデル事例集作成（青森県労政・能力開発課共催） |

6）スタッフ教育・人材育成

＊コロナウイルスの影響で多くの研修が中止。

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| R3．9．11 | 難病就労支援研修会参加（オンライン開催） |
| R3．9．24 | 就労支援ミニフォーラム NIPPON 参加（オンライン開催） |
| R3．11．30 | ブロック別経験交流会議参加（オンライン開催） |
| R4．2．11 | 第 22 回全国就業支援ネットワーク定例研究研修会（オンライン開催） |

② 生活支援等事業

1）日常生活の自己管理に関する指導・助言

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| 随時 | 生活習慣の形成や日常生活の自己管理のための助言<br>健康管理や金銭管理等に関する指導・助言<br>保健医療機関、生活支援サービス利用の支援を実施 |

2）地域生活に関する指導・助言

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| 随時 | 住居の確保や年金などの申請に関して助言<br>活用できる福祉サービスの利用調整を実施<br>就業後や休日における余暇活動について助言 |

3）生活設計に関する指導・助言

| 月 | 行動報告 |
|---|---|
| 随時 | 長期的な視野での生活設計等について指導・助言<br>本人の自己選択・自己決定に関する助言 |

4）家族、知人との関係の調整や緊急時の対応等の支援を行った。

5）その他就業及びこれに伴う日常生活又は社会生活に必要な支援を行った。特にコロナウイルス感染拡大により、行動が制限されている方、仕事や就職活動に影響が出ている方に対し、電話での様子伺いを重点的に実施した。

## ◆こころすこやか財団グループホーム

報告担当者　管理者　森　富茂子

【報告概要】

障害者総合支援法に基づく指定障害福祉サービス事業「外部サービス利用型共同生活援助事業」の適切な運営と、利用者が地域において共同して自立した日常生活及び社会生活を営む事ができるよう援助し、障害者の福祉の増進を図った。

コロナ禍で利用者様に行動制限等お願いする機会も多かったが、その中でも安心して生活を送ることが出来るよう支援した。

【報告項目】

①こころすこやか財団グループホームの運営

「あおぞら（現５番館）（定員：女性７名）」「あおめ（現１番館）（定員：男性１０名）」

「あおみ（現３番館）（定員：男性７名）」「あおば（現２番館）（定員：５名）」

1）個別支援計画の作成及び提供
2）関係機関との情報共有及び連携
3）生活の質の向上及び健康の維持
4）訓練等給付費請求・受領業務
5）生活費等の出納管理
6）訓練等給付の支給決定内容の管理
7）外部サービス利用時の連絡調整
8）年間利用者状況
9）事業所移転と名称変更について
10）あおば（現２番館）移転について
11）職員のサービスの質の向上を目指した事業所内研修の実施

【報告内容】

①こころすこやか財団グループホームの運営

1）個別支援計画の作成及び提供

利用者の意向、適正、障害の特性を踏まえた個別支援計画を作成し提供するとともに、断続的な評価を実施し適切かつ効果的な援助を提供した。

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 適宜 | アセスメント |
| 適宜 | 個別支援計画の評価・個別支援計画の作成検討会議 |
| 適宜 | 個別支援計画の作成と同意・提供 |

2）関係機関との情報共有及び連携

利用者の意思及び人格を尊重し利用者の立場に立ったサービスの提供と、医療、関係機関、家族との連携、調整を行なった。

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 随時 | 通院同行、関係機関同行<br>家族と連絡、情報交換<br>サービス担当者会議・ケア会議の実施、参加 |

3）生活の質の向上及び健康の維持

生活の質の向上と健康維持の為の援助を提供した。
利用者様全員に市町村が実施している健康診断を受けてもらい、個人の健康状態の把握に努めた。またかかりつけ医に相談しながら、必要な方に再検査実施している。

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| R3．7．11<br>R3．12．19 | 日中想定通報・避難訓練<br>夜間想定通報・避難訓練 |
| 随時 | 服薬管理・健康管理・生活相談・建物管理・設備管理・環境整備・大掃除支援等 |
| R3．9．16<br>R3．9．17<br>R3．9．30<br>R3．10．8<br>R3．11．4<br>R3．11．11 | 健康診断の実施及びその同行、実施医療機関と連絡調整、かかりつけ医への報告、再検査実施<br>①健診実施・同行（４名）<br>②健診実施・同行（５名）<br>③健診実施・同行（５名）<br>④健診実施・同行（１名）<br>⑤健診実施・同行（１名）<br>⑥健診実施・同行（１名） |
| R4．3．10 | 保護者に向けて日常状況等を発信<br>・グループホーム便り |
| R３．11．24<br>R4．2．19<br>R4．2．20 | 行事<br>避難経路を歩く（14名）<br>①デリバリー利用（３名）<br>②デリバリー利用（８名） |

4）訓練等給付費請求・受領業務

サービス費等請求業務及びサービス費等代理受領業務

| 実施月日 | 行動計画 |
|---|---|
| 毎月 | 利用料金の徴収<br>国保連の請求及び代理受領<br>会計に関する諸記録の整備 |

5）生活費等の出納管理

家賃、水光熱費、その他日常に要する費用に関する金銭管理を行った。

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 毎月２日 | 利用料金の徴収・返金<br>会計に関する諸記録の整備 |

6）訓練等給付の支給決定内容の管理

| 実施月日 | 行動計画 |
|---|---|
| 随時 | 訓練給付サービス支給更新手続き<br>利用者負担上限額更新手続き |

7）外部サービス利用時の連絡調整

| 実施月日 | 行動計画 |
|---|---|
| 随時 | 個別支援計画に基づいた居宅介護支援事業所への依頼及び連絡調整<br>関係機関への情報提供等 |

8）年間利用者状況
（利用者数は毎月末現在）　　単位：人

| 月 | あおめ 定員10名（男） 令和３年９月１日から１番館 | | | あおば 定員5名（男女） 令和３年９月１日移転（２番館） | | | あおみ 定員７名（男） 令和３年９月１日から３番館 | | | あおぞら 定員７名（女） 令和３年９月１日から５番館 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入 | 退 | 現在実数 | 入 | 退 | 現在実数 | 入 | 退 | 現在実数 | 入 | 退 | 現在実数 |
| R3.4月 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 3 |
| 5月 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 3 |
| 6月 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 3 |
| 7月 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 3 |
| 8月 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 3 |
| 9月 | 0 | 0 | 7 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 3 |
| 10月 | 0 | 0 | 7 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 3 |
| 11月 | 0 | 1 | 6 | 1 | 0 | 3 | 0 | 1 | 6 | 0 | 0 | 3 |
| 12月 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 3 |
| R4.1月 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 6 | 0 | 1 | 2 |
| 2月 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 2 |
| 3月 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 2 |
| 延利用者数計 | 0 | 1 | 79 | 3 | 0 | 18 | 0 | 1 | 79 | 0 | 1 | 33 |

9）名称変更について
令和３年９月１日に、事業所を田面木赤坂16−8に移転し、グループホームあおめ(現１番館)、グループホームあおみ（現３番館)、グループホームあおぞら（現５番館）に名称変更している。

10）あおば（現２番館）移転について
令和３年９月１日に、グループホームあおば（現２番館）(定員５名)を移転している。

11）職員のサービスの質の向上を目指した事業所内研修の実施

| 月 | 行動計画 |
|---|---|
| R3. 7 | 糖尿病とコレステロールについて |
| R3. 10 | 仕事の効率と接遇 |

# ◆グループホーム青風荘

報告担当者　施設長　高橋　昭徳

【報告概要】

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業「介護サービス包括型共同生活援助事業」の適切な運営と、利用者が地域において共同で自立した日常生活または社会生活を営む事ができるよう日常生活上において必要となる援助を行い、生活能力の低下防止と生活の質の向上・自立の促進を図った。

【報告項目】

①グループホーム青風荘の運営（定員 20 名）

1）日常生活上の支援全般、相談、連絡調整
2）個別支援計画の作成、ケアマネジメントの実施
3）関係機関との情報共有及び連携
4）健康管理
5）非常災害対策
6）利用者負担金及び生活費等の出納管理
7）介護給付費請求・受領業務
8）訓練等給付費の支給決定内容の管理
9）余暇活動支援
10）年間利用者状況

【報告内容】

①グループホーム青風荘の運営

1）日常生活上の支援全般、相談、連絡調整

１日を通して日常生活の質の向上・維持の為、利用者の意向を踏まえ、日常生活に必要なサービス（家事・相談・助言等）を 24 時間体制で提供した。

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 通年 | 夜間においての排泄の介助や見守り<br>入浴・食事等の支援、洗濯及び掃除・買物等の身の回りや家事全般に関する相談や援助<br>公共機関利用の支援 |
| 随時 | 支援会議の実施 |

日中活動の場等関係機関との連絡・調整

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 毎週・月～金 | 通所リハビリテーション青陽館との情報共有、及びプログラム参加の支援 |
| 随時 | ケア会議への参加 |

2）個別支援計画の作成・ケアマネジメントの実施

利用者・家族の現状やニーズなどを把握するためにアセスメント及びモニタリングを実施し、個別支援計画を作成し、それに基づいて適切なサ-ビスを提供した。

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 随時（６ヶ月以内） | 個別支援計画書の作成及び更新<br>個別支援計画作成検討会議 |

3）関係機関との情報共有及び連携

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 適宜 | 外来受診時における利用者の身体・精神状況の情報提供及び同行支援<br>家族との連絡・面談及び情報交換<br>ケア会議への参加 |

4）健康管理

定期検診の実施

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 朝・夕（毎日） | 対象者のバイタル測定 |
| R4．2 | 頭部 CT 検査（19 名） |
| R3．9月 10月 | 胸部X-P（一般者 19 名） |
| R3．8月９月<br>R4．3 | 定期採血（一般セット 19 名）<br>定期採血（一般セット 20 名） |
| R3．10月 11 月 | インフルエンザ予防接種（20 名） |
| R3．11 | 心電図（19 名） |

5）非常災害対策

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| R3．6 | 避難誘導訓練（日中想定） |
| R4．4 | 避難誘導訓練（夜間想定） |
| 毎月 | 消防用設備の自主点検 |
| 年度末 | 消防用設備等点検結果報告書・点検記録表・自主点検表の提出 |

6）利用者負担金及び生活費等の金銭管理

利用者負担額等の請求・利用料等の受領業務

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 毎月 | 利用料の徴収・返金<br>会計に関する諸記録の整備 |

7）介護給付費請求・受領業務

サービス費等請求業務及びサービス費等法定代理受領業務

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 毎月 | 国保連への請求・受領<br>会計に関する諸記録の整備 |

8）訓練等給付費の支給決定内容の管理

| 月 | 行動計画 |
|---|---|
| 随時 | 訓練給付サービス支給量更新手続き<br>利用者負担上限額更新手続き |

9）余暇活動支援
レクリエーションの実施
利用者が高齢となってきた事、コロナウイルス感染対策のため外出を控え、荘内で季節に合わせた行事を中心に実施。

| 月 | 行動計画 |
|---|---|
| R3．４月 | バーベキュー・周辺散策 |
| ５月 | スポーツ大会＆誕生会 |
| ６月 | 出前ランチ |
| ７月 | 青風荘夏祭り |
| ８月 | 納涼会 |
| ９月 | 昼食会 |
| 10 月 | 誕生会 |
| 11 月 | 青風荘運動会 |
| 12 月 | クリスマス忘年会 |
| R4．１月 | 新年会 |
| ２月 | 誕生会 |
| ３月 | 昼食会 |

10）年間利用者状況（利用者数は毎月末日現在）

| 月 | 各月在所人数 | | | 入所 | | | 退所 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| R3.4 月 | 10 | 9 | 19 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 5月 | 10 | 9 | 19 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 6月 | 10 | 9 | 19 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7月 | 9 | 10 | 19 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 8月 | 9 | 10 | 19 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 9月 | 9 | 10 | 19 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 10月 | 9 | 10 | 19 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 11月 | 10 | 10 | 20 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 12月 | 10 | 10 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| R3.1 月 | 10 | 10 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2月 | 10 | 10 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3月 | 9 | 10 | 19 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 計 | 115 | 117 | 232 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 3 |
| **前年度** | 118 | 112 | 230 | | | | | | |

利用者の高齢化に伴い、身体機能の低下等の理由から高齢施設への移行を進めている。

# ◆障害者生活訓練施設　青山荘

報告担当者　管理者　高橋　昭徳

【報告概要】

障害者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、生活能力の維持・向上を目的に、食事や日常生活全般に関わる必要な生活訓練を行った。また、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供、地域連携に努めた。

【報告項目】

①障害者生活訓練施設青山荘の運営
（通所型生活訓練　定員２０名　宿泊型生活訓練　定員２０名）

1）個別支援計画の作成、モニタリングの実施
2）社会生活力を高めるためのプログラムを実施
3）運営に関する会議
4）関係機関との情報共有、及び連携
5）生活の質の向上・維持
6）生活費等の金銭管理
7）訓練等給付費の請求及び受領業務
8）利用者の確保
9）年間利用者状況

【報告内容】

①障害者生活訓練施設　青山荘の運営

1）個別支援計画の作成、モニタリングの実施

利用者の置かれている環境及び日常生活全般の状況等を通じて、利用者及びその家族が希望する生活や課題を明らかにし、適切な支援内容の把握に基づき達成目標を設定し、サービス担当者会議を経て個別支援計画を作成した。個別支援計画書作成後、３ヶ月に１回以上定期的に個別支援計画実施状況の把握を行い必要に応じて個別支援計画の変更を行った。

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 随時 | アセスメントの実施、個別支援計画の作成<br>モニタリングの実施（３ヶ月に１回以上）、個別支援計画の見直し |

2）社会生活力を高めるためのプログラムを実施

- ◆ 健康管理
- ◆ セルフケア（保清）
- ◆ 安全・危機管理
- ◆ すまい
- ◆ 買い物
- ◆ コミュニケーション
- ◆ 運動
- ◆ 食生活
- ◆ 生活リズム
- ◆ 金銭管理
- ◆ 掃除・整理
- ◆ 服装
- ◆ 外出・余暇支援
- ◆ 病気の理解

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 毎月２０日 | 翌月のプログラム予定表を作成 |
| 毎日 | 各利用者に合わせて集団・個別プログラムを実施 |
| R3．５月７月１０月<br>１１月１２月<br>R4．２月３月 | コロナウイルス感染対策のため、特別プログラムを定期的に荘内で実施。卓球大会のみ田面木公民館で実施。<br>お楽しみ会・BBQ・ハロウィン・特別調理・卓球大会<br>クリスマス会・節分 |

３）運営に関する会議

利用者に関する情報の共有、連絡事項、支援内容の見直しなどについて会議内で検討した。

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 毎月１回 | 利用者に関する情報・連絡事項・支援内容の見直し等について所内会議を行った |

４）関係機関との情報共有、及び連携

利用者の意志及び人格を尊重し利用者の立場に立ったサービスの提供、及び医療、関係機関、家族との密接な連携を図った。

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 適宜 | 必要に応じて関係機関・家族への情報提供（家族交流会）、ケア会議の招集、ケア会議への参加 |

５）生活の質の向上・維持

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 毎月 | 苦情処理委員会の開催 |
| R3．９月・R4．３月 | 避難訓練（消防計画・報告書の提出） |
| 適宜 | 消防用設備の自主点検実施（専門業者に委託）<br>令和３年度分の消防用設備等点検結果報告書・点検記録表・自主点検票をR4年４月に消防署へ提出） |

６）生活費等の金銭管理

利用者・家族の希望に応じて生活費等の金銭管理等を行った。

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 適宜 | 新規利用者へ金銭管理方法を確認<br>事業所で通帳・印鑑・現金等を預かる際は、預かり証にサインをいただいてから預かった |

７）訓練等給付費の請求及び受領業務

毎月サービス利用費等を国保連へ請求する。また国保連よりサービス利用費の代理受領業務を行った。

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 毎月 | サービス利用費等を国保連へ請求、代理受領書の発行 |

８）利用者の確保

利用率をキープするために病院・関係機関への連絡調整を行った。

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| 適宜 | 青南病院や相談支援事業所などの関係機関へ利用希望者や生活訓練が該当する利用者がいないか適宜連絡調整を行った。 |

9）年間利用者状況

Ⅰ.　「宿泊型」（利用者数は毎月末現在）　単位：人

| 月 | 各月訓練利用者数（登録者数） | | | 新規訓練利用者数 | | | 訓練修了者数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| R3. 4月 | 11 | 4 | 15 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 5月 | 10 | 4 | 14 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 6月 | 10 | 4 | 14 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7月 | 11 | 4 | 15 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 8月 | 10 | 4 | 14 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 9月 | 9 | 4 | 13 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 10月 | 8 | 5 | 13 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 11月 | 9 | 5 | 14 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 12月 | 9 | 4 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| R4. 1月 | 9 | 4 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2月 | 10 | 4 | 14 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 3月 | 10 | 4 | 14 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 116 | 50 | 166 | 5 | 1 | 6 | 4 | 1 | 5 |

| 年間平均利用数 | | |
|---|---|---|
| | 今年度 | 13.8 |
| | 前年度 | 13.1 |

Ⅱ.　「通所型」（利用者数は毎月末現在）　単位：人

| 月 | 各月訓練利用者数（登録者数） | | | 新規訓練利用者 | | | 訓練終了者 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| R3. 4月 | 9 | 4 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5月 | 9 | 3 | 12 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 6月 | 8 | 3 | 11 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 7月 | 9 | 3 | 12 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 8月 | 8 | 3 | 11 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 9月 | 7 | 3 | 10 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 10月 | 7 | 4 | 11 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 11月 | 8 | 4 | 12 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 12月 | 8 | 4 | 12 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| R4. 1月 | 8 | 4 | 12 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2月 | 9 | 4 | 13 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 3月 | 9 | 4 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 99 | 43 | 142 | 3 | 1 | 4 | 3 | 1 | 4 |

| 年間平均利用数 | | |
|---|---|---|
| | 今年度 | 11.8 |
| | 前年度 | 10.9 |

※宿泊型、通所型共に平均利用数が前年度より増加した。コロナ感染対策により他事業所との交流が制限され入退所支援に難しさを感じているが、利用者数は維持する事ができた。

## ◆障害者就労移行支援事業

報告担当者　代表理事　松倉　典子

【報告概要】

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業「就労移行支援事業」において、障害者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう、生活能力の維持・向上、また社会経済活動への参加のための就労訓練を行い、社会参加を促進すると共に障害者の自立した生活を助長するため障害者就労移行支援事業所の立ち上げに関しての検討を行う予定としていたが、未検討となった。

【報告項目】

①障害者就労移行支援事業所の立ち上げ準備

【報告内容】

①障害者就労移行支援事業所の立ち上げ準備

需要が現状では見込まれないため、事業立ち上げは未検討となった。

## ◆指定（介護予防）認知症対応型通所介護事業　結び家

報告担当者　管理者　金澤　一美

【報告概要】

認知症の利用者を対象にした専門的なケアを提供し、利用者が可能な限り居宅で自立した日常生活を送ることができるよう、食事や入浴などの日常生活上の支援や、生活機能向上のための機能訓練や口腔機能向上サービスなどを日帰りで提供した。また自宅にこもりがちの利用者の社会的孤立感の解消や心身機能の維持回復だけでなく、家族の介護の負担軽減などを目的とし事業に取り組んだ。更に若年性認知症者の支援にも力を入れ、若年性認知症サポートセンターゆえみとして、若年性認知症者及びその家族を対象としたサロン活動を実施し、当事者の仲間作りや悩み相談、そして家族の不安や悩み等の解消及び情報交換による心理的負担を軽減することを目的として事業を行った。

【報告項目】

①（介護予防）認知症対応型通所介護事業の運営
②若年性認知症サポートセンターゆえみ事業
③スタッフ教育
④介護サービスに事業所に対する実地指導

【報告内容】

①（介護予防）認知症対応型通所介護事業の運営
（1）通所支援事業
1）日常生活とのつながりを意識した認知症者の自立につながるサービスを提供した。
サービス提供日：月曜日～金曜日（年末年始は除く）１日定員:12 名

| 月 | 利用者延人数 | 平均利用者数（１日） | 利用率（月） | 稼働率 | 登録者率 | 登録者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| R3．４月 | 151 名 | 6.9 名 | 78.03% | 91.56% | 85.23% | 22 |
| ５月 | 141 名 | 6.7 名 | 55.95% | 88.68% | 63.10% | 21 |
| ６月 | 127 名 | 6.4 名 | 52.92% | 89.44% | 59.17% | 21 |
| ７月 | 144 名 | 6.5 名 | 54.55% | 87.27% | 62.50% | 23 |
| ８月 | 144 名 | 6.5 名 | 54.55% | 89.44% | 60.98% | 22 |
| ９月 | 154 名 | 7.0 名 | 58.33% | 83.42% | 64.77% | 24 |
| 10月 | 162 名 | 7.7 名 | 64.29% | 83.42% | 80.42% | 24 |
| 11月 | 162 名 | 7.4 名 | 61.36% | 89.01% | 68.94% | 22 |
| 12月 | 133 名 | 6.0 名 | 50.38% | 89.26% | 56.44% | 22 |
| R4．１月 | 121 名 | 6.1 名 | 50.42% | 96.03% | 52.50% | 20 |
| ２月 | 118 名 | 5.9 名 | 49.17% | 92.19% | 53.33% | 19 |
| ３月 | 139 名 | 6.0 名 | 50.36% | 89.68% | 56.16% | 20 |
| | 延利用者合計 | 平均利用者数（１日） | 利用率月平均 | 稼働率月平均 | 登録者率月平均 | |
| | 1696 | 6.59 | 56.69% | 89.12% | 63.63% | |

R３年度比 1925 名　R３年度 1696 名　▽229
（R4．３．31 現在）新規利用者 13 名　終結者 14 名

【実績に対する分析内容】
今年度は、４・５・７・９・10・２・３月に新規利用あり。利用目的は、家族の介護負担の軽減・清潔保持、活動性を持たせせたい、認知症の進行に伴い他サービスから移行になったためとなっている。介護度は要介護 1～3 内訳として当財団居宅から４件、他事業所から９件となっている。新規利用者 13 名。
新規利用に関しては、13 名中 7 名の方が新規介護認定を受け、初めて介護サービスを利用されている。介護支援専門員からの相談にて利用、家族希望にて利用、認知症専門医の薦めにて利用。
終結者は、14 名で身体状況の変化により、他サービス移行、在宅での生活が困難の為、他施設入所、治療目的の入院、他界、本人希望の為となっている。
上半期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止による影響もあったが、利用者が増えないことや、他サービス移行、ワクチン接種、受診、体調不良による休みによりキャンセルがあり利用率平均 55.68%と下降している。下半期に関しても新型コロナウイルス感染症拡大防止による影響も継続しており、職員家族が陽性となり、大事を取り１日臨時休業している。また、在宅での生活が困難、他サービス移行等で終結者が増加したこと、ワクチン接種、受診、体調不良、短期利用キャンセルと利用者が増えず、下半期の利用率が 56.38%と下降。年平均 56.69%と目標値 80%に達していない。前年度比 6.44%の減となっている。利用相談は、結び家の特性を理解している現在利用されている利用者担当の介護支援専門員の件数もあったが、近隣の居宅へ空き情報提供し利用に繋がった方もいる。次年度は計画的に営業を継続し、安定した稼働率を目指していく。
現在利用されている利用者の定期曜日以外での受け入れも検討していく。

【新型コロナウイルス感染症拡大予防の為キャンセル】

| 月／区分 | 4月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 11月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 要支援１ | | | | | | | 1名（1日） |
| 要介護1 | 1名（1日） | | | | | | 1名（1日） |
| 要介護２ | | | 1名（2日） | 1名（1日） | 1名（1日） | | 3名（各1日） |
| 要介護３ | | 1名（1日） | 1名（2日） | 1名（3日） | 1名（1日） | 1名（2日） | 1名（1日） |
| 要介護４ | | | | 1名（3日） | 1名（2日） | | 2名（各1日） |
| 合計人数 | 1名 | 1名 | 2名 | 3名 | 3名 | 1名 | 8名 |
| 日数 | 1日 | 1日 | 4日 | 7日 | 4日 | 2日 | 8日 |

※同居家族が他県へ移動、帰省による為キャンセル。同居家族の職場での感染者発生に伴い
感染防止の為キャンセル。職員家族が陽性となり大事を取り臨時休業（R4．3．4）。
（合計人数 19 名、合計日数 27 日）

【介護区分別】

| 区分／月 | 要支援1 | 要支援2 | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 合　計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| R3. ４月 | | | 8 | 9 | 5 | | | 22 | 1.86 |
| ５月 | | | 8 | 9 | 5 | | | 21 | 1.81 |
| 6月 | | | 8 | 10 | 3 | 1 | | 21 | 1.90 |
| 7月 | | | 8 | 2 | 3 | 1 | | 23 | 1.86 |
| 8月 | | | 7 | 10 | 3 | 2 | | 22 | 2.00 |
| 9月 | | | 8 | 11 | 3 | 2 | | 24 | 1.96 |
| 10月 | | | 9 | 11 | 2 | 2 | | 24 | 1.88 |
| 11月 | | | 6 | 11 | 2 | 2 | | 22 | 2.14 |
| 12月 | | | 7 | 11 | 2 | 2 | | 22 | 1.95 |
| R4. １月 | 1 | | 7 | 9 | 2 | 2 | | 20 | 2.00 |
| ２月 | | | 6 | 10 | 1 | 2 | | 19 | 1.95 |
| ３月 | 1 | | 5 | 9 | 3 | 2 | | 20 | 2.02 |

年間平均介護度 1.9　（新規利用者 13 名　終結者 14 名）

２）在宅生活を支えるための地域・家族交流
（例年行っている交流）
◆八戸シニアはつらつポイント事業でのボランティア受入継続
◆グッジョブ受け入れ
◆上長地区敬老会　新年会
※新型コロナウイルス感染症拡大予防の為、全て中止となっている。

３）安定した収入の確保（営業関係）
広報活動：医療機関、居宅介護支援事業所等への広報活動を実施した。利用相談は、結び家の特性を理解している現在利用中の担当介護支援専門員の相談が多かった。

| 月 | 実施内容 |
|---|---|
| ４月～３月 | 現在利用中の居宅介護支援事業所へ営業（同居宅からの相談多い為）<br>FAX、実績時に空き情報案内・ホームページにて空き情報案内 |
| 6月　1月 | 市内居宅へ営業 |
| その他 | 外部研修・サービス会議時の案内・営業・電話 |

４）運営推進会議
八戸市より、新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、運営推進会議については、事業所等の開催場所に参集せずに、運営推進委員へ報告内容を書面で送付し、意見を求めることで、運営推進会議を開催したと認めるという通知がありました。その為、新型コロナウイルス感染拡大防止のため集会形式での開催は中止し書面による報告とした。

| 月 | 実施内容 |
|---|---|
| R3. 6. 23 | ①R２年度事業報告（資料配布）<br>②利用アンケート結果報告（資料配布）<br>※委員６名　介護保険課、高齢支援センターへ資料、報告書配布<br>※各委員の方へ資料を配布し意見を求めている。 |
| R3. 12. 8 | ①R３年度上半期事業報告<br>※委員６名　介護保険課、高齢支援センターへ資料、報告書配布<br>※各委員の方へ資料を配布し意見を求めている。 |

5）避難訓練の実施

（1）日中火災想定の避難訓練２回実施

| 月 | 実施内容 | 参加人数 |
|---|---|---|
| R3. 9. 20 | 日中火災想定の避難訓練 | 利用者 ７名<br>職員　８名 |
| R4. 3. 29 | 日中火災想定の避難訓練<br>（図上訓練）シュミレーション訓練 | 利用　０名<br>職員　８名 |

（2）相談支援事業

認知症高齢者だけではなく、若年性認知症及び認知症を発症した障害者の相談にも積極的に応じ、適したサービスを利用できるよう情報の提供を行った。他事業所と連携を図り、認知症者本人の豊かな地域生活につながるよう支援を実施した。

| 月 | 実施内容 | | |
|---|---|---|---|
| R3. ４月 | 利用相談３件 | 家族相談０件 | 利用中止相談０件 |
| ５月 | 利用相談２件 | 家族相談０件 | 利用中止相談０件 |
| ６月 | 利用相談０件 | 家族相談０件 | 利用中止相談０件 |
| ７月 | 利用相談３件 | 家族相談0件 | 利用中止相談０件 |
| ８月 | 利用相談２件 | 家族相談０件 | 利用中止相談０件 |
| ９月 | 利用相談３件 | 家族相談０件 | 利用中止相談０件 |
| 10月 | 利用相談０件 | 家族相談０件 | 利用中止相談０件 |
| 11月 | 利用相談０件 | 家族相談０件 | 利用中止相談０件 |
| 12月 | 利用相談３件 | 家族相談０件 | 利用中止相談０件 |
| R4. １月 | 利用相談２件 | 家族相談０件 | 利用中止相談０件 |
| ２月 | 利用相談２件 | 家族相談０件 | 利用中止相談０件 |
| ３月 | 利用相談２件 | 家族相談０件 | 利用中止相談０件 |
| 合計 | 利用相談 22 件 | | |

*介護支援専門員からの相談件数は多いが、相談だけで他サービスや他施設入所等で実際に利用に繋がった方は１０名。

②若年性認知症サポートセンターゆえみ事業

若年性認知症者及びその家族を対象としてサロン活動（すこやかサロン結喜）を月１回実施し、本人や家族の交流の場として、仲間作りや家族の精神的負担の軽減を図った。冬期間は参加されていなかったが、遠方の青森市から若年認知症者と家族が参加されている。
家族間でのアドバイス、介護経験等を通じての助言や提案等もあり、学ぶことも多く、家族の方からは毎回のサロンが楽しいとの話しが聞かれていた。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、開催時間の短縮、感染対策を行い開催した。
新型コロナウイルス感染者増加に伴い、拡大防止の為に１月～３月は開催中止とした。中止連絡時に近況状況を聞く対応を行った。

| 月 | 実施内容 | 参加人数 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 家族 | 当事者 | 合計 |
| R3. 4. 10<br>（第２土曜日） | 当事者:音楽・テレビ鑑賞/談話<br>家族/談話 | ２名 | １名 | ３名 |
| R3. 5. 8<br>（第２土曜日） | 当事者:テレビ鑑賞・談話・ドライブ（白山台公園）<br>家族/談話 | ２名 | １名 | ３名 |
| R3. 6. 12<br>（第２土曜日） | 当事者:テレビ鑑賞・談話・ドライブ（八戸公園）<br>家族/談話 | ２名 | ５名 | ７名 |
| R3. 7. 10<br>（第２土曜日） | 当事者:テレビ鑑賞・談話・ドライブ（蕪島神社）<br>家族/談話 | １名 | １名 | ２名 |
| R3. 8. 21<br>（第３土曜日） | 当事者:テレビ鑑賞・談話・ドライブ（南部山）<br>家族/談話 | 2名 | 2名 | 4名 |
| R3. 9. 11<br>（第２土曜日） | 新型コロナウイルス感染症拡大予防の為中止 | | | |
| R3. 10. 9<br>（第２土曜日） | 当事者:音楽・テレビ鑑賞・談話/ゲートボール、ジェンガ、お手玉ボッチャ<br>家族/談話 | 3名 | ６名 | ９名 |
| R3. 11. 13<br>（第２土曜日） | 家族/談話 | ０名 | ２名 | ２名 |
| R3. 12. 11<br>（第2土曜日） | 当事者:テレビ鑑賞・談話・ドライブ（沿岸方面）<br>家族/談話 | １名 | ３名 | ４名 |
| R4. 1. 22<br>（第3土曜日） | 新型コロナウイルス感染症拡大予防の為中止 | | | |
| R4. 2. 12<br>（第２土曜日） | 新型コロナウイルス感染症拡大予防の為中止 | | | |
| R4. 3. 12<br>（第２土曜日） | 新型コロナウイルス感染症拡大予防の為中止 | | | |

③スタッフ教育

スタッフの質の向上を図る事で、サービスの質の向上につなげる。伝達能力を身につけられるよう各自担当制にして勉強会を開催した。新型コロナウイルス感染症予防の為オンライン研修参加含む。

| 月 | 形態 | 実施内容 |
|---|---|---|
| R3. 6. 11 | 法人研修 | 接遇、倫理及び法令遵守について |
| R3. 6. 12 | 勉強会 | 若年性認知症ケアの現状とケアの方向性 |
| R3. 7. 10 | 勉強会 | コロナ禍の認知症ケア・医療の課題と対応 |
| R3. 7. 15 | 外部研修 | 相談支援従事者現任研修（金澤） |
| R3. 7. 19 | 法人内勉強会 | 感染症・食中毒の予防について<br>緊急時の対応及び防災対策について |
| R3. 8. 20 | 外部研修 | 相談支援従事者現任研修（金澤） |
| R3. 9. 6 | 法人内勉強会 | 苦情対応について　事故対応について |

| 月 | 形態 | 実施内容 |
|---|---|---|
| R3．9．22 | 外部研修 | 相談支援従事者現任研修（金澤） |
| R3．11．15 | 法人内勉強会 | Zoomのやり方について |
| R3．11．19 | 法人研修 | 障害者施設の防犯について |
| R3．12．3 | 法人研修 | ＡＥＤ研修　　八戸消防尻内分遣所 |
| R3．12．11 | 勉強会 | 高齢者虐待防止に関連法を含む虐待について<br>身体拘束について |
| R4．1．12 | 外部研修 | 青森県認知症介護基礎研修（米内） |
| R4．1．22 | 勉強会 | 介護予防、要介護進行予防について |
| R4．1．31 | 法人内勉強会 | 生活習慣病の予防（食生活編）<br>講師:三戸地方保健所　健康保険課 |
| R4．2．4 | 法人研修 | 苦情への対応と虐待について<br>青森県運営適正化員会田中宏幸氏 |
| R4．2．12 | 勉強会 | プライバシー保護について |
| R4．3．12 | 勉強会 | 非常時、災害時について |

④介護サービスに事業所に対する実地指導

| | |
|---|---|
| 根拠規定等 | 介護保険法23条、八戸市介護保険サービス事業者等指導要綱第６条第２号 |
| 目的 | 介護保険法に規定する介護給付等対象サービスの質の確保及び保険給付の適正化を図る。 |
| 指導日時 | 令和３年12月１日（水）13:30～15:30 |
| 指導担当者 | 八戸市　介護保険課　介護事業者グループ　田村氏、大高氏 |
| 出席者 | 結び家　松倉、金澤、米内 |

実地指導結果（改善見込み事項のみ）

| 区分 | 項目 | 口頭指摘、助言内容 |
|---|---|---|
| 口頭指摘 | 勤務体制の確保 | 公示及び労働条件通知において、就業場所と職種を明確にする。 |
| 口頭指摘 | 衛生管理等 | 利用者ごとに換水しない浴槽は、１年に１回以上、レジオネラ属菌の水質検査を実地すること。<br>⇒（R3.3.1 に実施。問題なし） |
| 口頭指摘 | 運営規定 | 運営規定における昼食代について、重要事項書と整合性を図ること。⇒（R4.1～施行）市へ変更届提出済み。<br>※利用者家族には説明し同意済み。 |
| 口頭指摘 | 通所介護費 | 当日の利用者の心身の状況から短縮した所要時間に応じた所定単位数を算定する場合は、通所サービス計画書を再作成すること。⇒（R4.1～施行）※利用者家族には説明し同意済み。 |
| 助言 | 内容及手続きの説明及び同意 | 重要事項説明書等の署名を家族等が代筆した場合は代筆者の氏名、代筆した理由を明記することが望ましい。<br>⇒（R4.1～施行） |

※記録、通所計画書、カンファレンスについて高評価をされた。定期的にカンファレンスを行い、利用者のケアの工夫や方法を詳細に行っている等。

# ◆ケアプランセンター　まゆすい

報告担当者　堀　慕子

【事業報告】

介護を必要とする方が、居宅で適切にサービスを利用できるように介護支援専門員が心身の状況や生活環境、本人及び家族の希望等に沿ってケアプランを作成し様々な介護サービス事業所との連絡・調整を行い、適切なサービスが提供されるよう計画することで、居宅で自立した生活が送れるよう支援することを目的として事業を行った。

【報告項目】

①居宅介護支援事業所の運営
②サービスマネジメントシステムの確立
③介護支援専門員としての人材育成

【報告内容】

①居宅介護支援事業所の運営

（1）介護（予防）給付支援サービス

1）利用実績の管理

ケアプランの作成、介護サービス提供事業所等との連絡調整及びサービス等の利用状況の検証を行い半年ごとに計画見直しを行った。

月別請求件数

| 介護度／月 | 要支援 | 要介護 1・2 | 要介護 3・4・5 | 合計 | 新規 | 終了 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | 32 | 53 | 29 | 114 | 5 | 2 |
| 5月 | 33 | 53 | 28 | 114 | 1 | 2 |
| 6月 | 33 | 54 | 29 | 116 | 2 | 2 |
| 7月 | 32 | 55 | 32 | 119 | 5 | 2 |
| 8月 | 31 | 54 | 32 | 117 | 4 | 2 |
| 9月 | 30 | 53 | 31 | 114 | 8 | 0 |
| 10月 | 31 | 53 | 31 | 115 | 5 | 3 |
| 11月 | 34 | 53 | 30 | 117 | 4 | 1 |
| 12月 | 34 | 55 | 32 | 121 | 2 | 1 |
| 1月 | 33 | 57 | 33 | 123 | 1 | 2 |
| 2月 | 29 | 58 | 31 | 118 | 2 | 4 |
| 3月 | 30 | 58 | 31 | 119 | 6 | 1 |
| 合計 | 382 | 656 | 369 | 1407 | 45 | 22 |

2）利用者に関する支援内容を適切に記録した。

3）認定調査委託件数

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 7 | 6 |
| | | | | | | | | | | 合計 | 74 |

認定調査員４名

（2）運営上の透明性の確保と継続性
1）2021年度介護サービス情報報告システム登録し情報発信を行った。
2）在宅介護支援センターや関係機関と連携し新規利用者の獲得に繋げた。

②サービスマネジメントシステムの確立
（1）利用者・家族の在宅生活の支援
1）利用者が自立した生活を営むことが出来るよう十分な聞き取りを行い利用者のニーズを把握し支援を行った。
2）入院・入所時は情報提供し、退院・退所時は情報を得るよう医療機関・福祉施設等との連携を行うことで利用者の支援を行った。
3)週１回居宅会議を行い利用者の情報を共有し、担当ケアマネが不在時でも対応を行った。

③介護支援専門員としての人材育成
（1）介護支援専門員としての資質向上、専門知識、技術向上を図ることでマネジメントの質の向上を図るために、色々な外部研修に参加している。

| 月 | 形態 | 実施内容 |
|---|---|---|
| R3．6．2 | 外部研修 | Aブロック研修会<br>メルタス、ZOOM等ICT活用法 |
| R3．6．11 | 法人研修 | 接遇について |
| R3．7．12 | 外部研修 | 包括的支援事業研修会<br>口腔ケアの重要性 |
| R3．7．13 | 外部研修 | 地域ケア会議 |
| R3．7．19 | 法人勉強会 | 緊急時の対応及び防災対策 |
| R3．9．6 | 法人勉強会 | 事故・ヒヤリハットに伴う事故防止対策について |
| R3．9．10 | 外部研修 | Aブロック研修会<br>介護報酬改定について |
| R3．10．5 | 外部研修 | 包括的支援事業研修会<br>認知症情報連携ツールの活用方法について |
| R3．11．15 | 法人研修 | ZOOM講習、省エネ対策・コスト意識 |
| R3．11．17 | 外部研修 | 集団指導補足説明会 |
| R3．11．19 | 法人研修 | 障害者施設の防犯対策について |
| R3．12．10 | 法人行事 | 財団事例検討会<br>「様々な課題があるにもかかわらず、支援拒否等がある事例」 |
| R3．12．17 | 外部研修 | 地域ケア会議 |
| R3．12．21 | 外部研修 | 管理者研修(実践編) |
| R4．1．26 | 外部研修 | 地域ケア会議 |
| R4．1．31 | 法人勉強会 | 職員の健康管理について |
| R4．2．4 | 法人研修 | 苦情への対応と虐待について |

# ◆認知症事例検討会

報告担当者　佐々木　瞳

【報告概要】

認知症者になってもその人らしく生活していくために、どのような支援が必要か、またどのような体制が必要か、福祉専門職事例をもとに検証し、認知症者の処遇の向上を目指すことを計画。

【報告項目】

①地域で認知症に携わっている専門職員等と、事例検討会開催を計画。

【報告内容】

①地域で認知症に携わっている専門職員等と事例検討会開催。

昨年に引き続きオンライン（Zoom）で開催。財団が障害部門と高齢部門（若年性認知症を含む）のある法人であるため、双方の意見を交換できるテーマを設定し事例検討を行っている。今回は介護支援専門員の他に特定相談支援事業所の相談支援専門員にも開催案内を送付している。申し込み方法もFAXとオンライン（グーグルフォーム）を活用している。事例検討では、障害支援者と高齢支援者を組み合わせてグループ分けした事で、「多様な意見が聞けて参考になった」との意見が聞かれた。

良かった点として、余裕を持って準備することができたこと、グループワークの時間配分も余裕があり積極的な意見交換ができたこと。当日も大きなトラブル等なく運営できた。

反省点として、アンケートの回収率が低かったこと、グループ分けに時間を要してしまったこと。

今後もこの様な形での開催が増える可能性もある為、今回の良かった点、反省点を活かしてより良い形を作ることができればと思う(添付資料①当日資料②参加者名簿・出欠簿③参加者アンケート)。

| 実施月日 | 計画内容 | 参加施設 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| R3. 12. 10<br>18:00<br>～19:30 | 『様々な課題があるにもかかわらず、支援拒否等がある事例。』<br>～障害者施設から高齢者施設への移行について～<br><br>ケアプランセンターまゆすい<br>介護支援専門員　高橋　広文氏<br>（オンライン開催：結び家１階より配信） | 居宅介護支援事業所、高齢者支援センター、高齢福祉課 | 33名 |

# ◆ 青森県若年性認知症総合支援センター

報告担当者　勝見　綾乃

【報告概要】
　若年性認知症に対する認識が不足し、診断される前に症状が進行し社会生活が事実上困難となるケースや、本人やその家族、企業及び医療機関が若年性認知症を知っていても、活用が可能な福祉や雇用の施策があまり知られていないことなどから、経済的な面も含めて本人とその家族の生活が困難になりやすいことが指摘されている。これらの問題を解消し、若年性認知症の人一人ひとりが、その状態に応じた適切な支援を受けられるようにすることを目的として運営した。

【報告項目】
①若年性認知症総合支援センター事業の運営

【報告内容】
①若年性認知症総合支援センター事業の運営
1）相談支援事業
若年性認知症の多岐にわたる相談のワンストップ窓口の開設し、訪問、来所相談、電話相談、相談会等にて以下の相談に応じる。
・福祉サービスの利用援助に関すること
・社会資源を活用するための支援に関すること
・社会生活力を高めるための支援に関すること
・権利擁護のために必要な援助に関すること
※必要に応じて同行や関係機関との連絡調整を実施。

| | 通常相談 | 継続相談 | その他 | 単純問合せ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| R3．４月 | １名 | | | | １名 |
| ５月 | １名 | | ３名 | | ４名 |
| ６月 | ７名 | １名 | | | ８名 |
| ７月 | ２名 | | | | ２名 |
| ８月 | ５名 | | | | ５名 |
| ９月 | ７名 | | | | ７名 |
| １０月 | ８名 | | | | ８名 |
| １１月 | ６名 | | | | ６名 |
| １２月 | ５名 | | | | ５名 |
| R4．１月 | ５名 | | | | ５名 |
| ２月 | ２名 | | １名 | | ３名 |
| ３月 | ６名 | | | | ６名 |
| 合計 | 55名 | １名 | ４名 | | 60名 |

（備考）通常相談：64歳以下の相談
継続相談：初回相談64歳以下で現65歳以上の相談
その他：18歳未満65歳以上の相談

出張相談会
今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ中止。

２）若年性認知症自立支援ネットワーク会議の実施

発症初期から高齢期まで本人の状態にあわせた適切な支援が図られるよう、医療・介護・福祉・雇用の関係者が連携する若年性認知症自立支援ネットワークを構築するための会議を開催した。

報告では、令和２年度の実績報告と令和３年度の計画について報告している。情報提供として、青森県若年性認知症施策について（青森県健康福祉部高齢福祉保険課）、障害者雇用について（青森労働局）、介護保険制度について（青森県介護支援専門員協会）説明を行っている。協議では、相談事例を元に、介護者と本人の意向が異なる場合の対応について協議を行った。

協議の結果、タイミングやステージなど置かれている状況によって医療・介護・福祉・就労それぞれが介入できるポイントが多くあるケースであったこと、適切な対応方法や利用できるサービス等、情報共有をしながら支援に結びつけていくこと、そのためにこの会議を活用し連携体制づくりを行うことの重要性を確認し協議を終了している。

その他として、ネットワーク研修及び若年性認知症総合支援センターの周知について協力依頼を行っている。

| 実施月日 | 実施内容 | 構成団体（１２団体） |
|---|---|---|
| R3. 8. 31 | 令和３年度青森県若年性認知症自立支援ネットワーク会議実施<br>・報告<br>令和２年度実績報告<br>令和３年度実施計画<br>・情報提供<br>青森県若年性認知症施策について<br>障害者雇用について<br>介護保険制度について<br>・協議内容<br>事例検討<br>・その他 | ≪学識経験者≫<br>青森県立保健大学　准教授<br>≪医療≫<br>青森県医師会<br>認知症疾患医療センター<br>≪介護福祉≫<br>青森県介護支援専門員協会<br>青森県障害者就業・生活支援センター連絡協議会<br>≪当事者関係者≫<br>認知症の人と家族の会青森県支部<br>≪労働施策≫<br>青森労働局職業安定部職業対策課<br>青森障害者職業センター<br>青森産業保健総合支援センター<br>≪経済団体≫<br>青森県商工会議所連合会<br>青森県商工会連合会<br>≪市町村≫<br>青森市高齢者支援課 |

３）若年性認知症自立支援ネットワーク研修

若年性認知症の人に対する日常生活上の支援、就労上の支援等のために必要な知識・技術を習得するための研修を実施した。今年度は青森県の認知症の人の活躍推進事業との共同開催とし、一般県民も対象にしており、開催周知では医療機関と保健所とハローワークへポスターを送付したほか、１２市町村広報紙と、認知症の人と家族の会広報紙「ぽ～れぽ～れ」への掲載、コネクト８の掲示板、青森県作業療法士会からも周知協力を得られている。研修はZoomウェビナーを活用し事前に364名の申込があった。

支援コーディネーターより青森県若年性認知症総合支援センターの役割について説明を行い、青森県高齢福祉保険課からは認知症施策の総合的な推進について、青森県の現状について、認知症の人の活躍推進事業、認知症ピアサポーター活動についての説明を行って

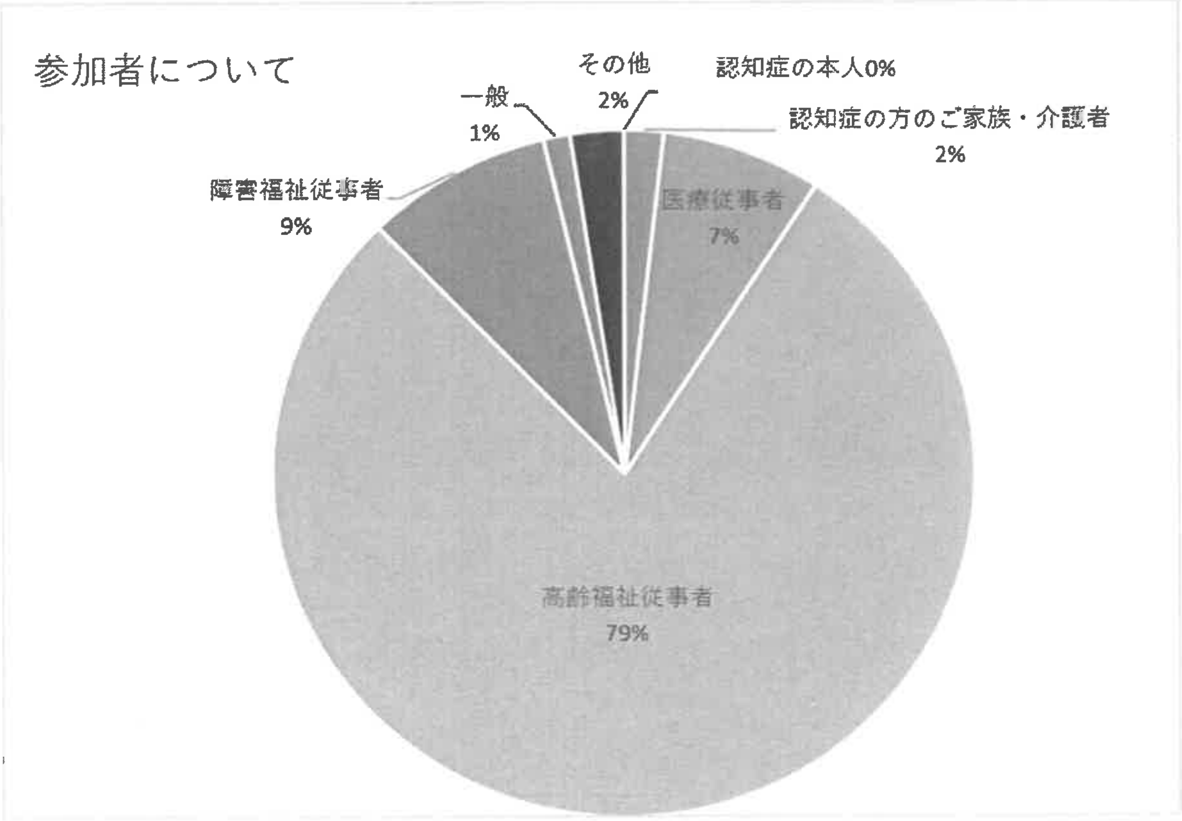
いる。対談として、丹野智文氏・藤田和子氏と支援コーディネーターの対談形式で参加者より事前にいただいた質問に対して回答をされている。お二人の意見として、認知症本人に対しては「周囲に、自分ができること、できないこと、そしてやりたいことを伝えておくのが良い」というメッセージをいただいている。支援者に対しては、「自分で決めることを応援してほしい、失敗することを先回りして回避するのはやめて、本人が安心して助けてもらえるようにしてほしい、自分達が工夫して生活できることを一緒に考えてくれる社会にしてほしい」とのメッセージをいただいている。参加者からの感想としては、「自分のことは自分で決める、応援してほしいという話に気づかされた」「支援者として耳の痛い話だった」との意見が多く聞かれている。

| 実施月日 | 実施内容 |
|---|---|
| R3. 11. 11 | 令和３年度青森県若年性認知症自立支援ネットワーク研修実施<br>テーマ「認知症になっても希望の持てる青森県に」<br>・青森県若年性認知症総合支援センターの役割について<br>・青森県の若年性認知症施策について<br>・認知症本人大使「希望大使」お二人による対談<br>講師：丹野　智文氏（おれんじドア代表）<br>藤田　和子氏（日本認知症本人ワーキンググループ代表理事） |

若年性認知症自立支援ネットワーク研修　アンケート結果

≪アンケート回答数≫　163名

≪参加者について≫　認知症の本人０名　認知症の方のご家族・介護者３名
一般２名　医療従事者１２名　高齢福祉従事者１２８名
障害福祉従事者１４名　その他４名



# ◆メンタルヘルスに関する事業

報告担当者　松倉　典子

【報告概要】

メンタルヘルスに関する事業を通して疾病発症を未然に防ぐことで、精神疾患発症の予防・早期発見・再発防止・社会復帰等の支援をする事で、心の健康を保ち、健全な地域づくりを行う事を目的として事業を行った。

【報告項目】

①ストレスチェックの実施
②メンタルヘルスに関する研修会の開催及び講師の派遣

【報告内容】

①ストレスチェックの実施

労働安全法に基づき、ストレスチェックの実施対象となる者並びに企業及び法人等からの依頼により、ストレスチェックを実施した。

| 実施日 | 委託者 | 実施内容 |
|---|---|---|
| R3．7 | 医療法人青仁会 | ・実施及び集団分析<br>受検者：139 名 |
| R4．1 | 社会福祉法人昭壽会 | ・ストレスチェック実施事前研修<br>1/20　13:30～14：30<br>・実施及び集団分析<br>受験者：53 名　面接指導実施：０名 |

②メンタルヘルスに関する研修会の開催及び講師の派遣

講師の派遣依頼無。

## ◆ 青森県若年性認知症実態把握事業

報告担当者　勝見　綾乃

【報告概要】

今後の若年性認知症施策に反映させるため、医療機関や介護保険等サービス提供事業所を対象とした若年性認知症への対応状況等について調査するとともに、若年性認知症者及び家族・介護者を対象とした実態・ニーズ把握のための調査を実施し若年性認知症実態調査報告書を作成した。

【報告項目】

①青森県若年性認知症実態把握事業の運営

【報告内容】

①青森県若年性認知症実態把握事業の運営

１）医療機関調査
認知症に対応できる医療機関等を対象に若年性認知症への医療提供体制等に関する調査を実施した。

２）サービス提供事業所調査
介護保険事業所及び障害福祉サービス事業所を対象に若年性認知症へのサービス提供体制等に関する調査を実施した。

３）本人・家族調査
若年性認知症の本人及び家族・介護者を対象に日常生活の実態、課題・ニーズ等に関する調査を実施した。

４）調査の方法
１）から　３）までの調査は、郵送等よるアンケート調査とした。

５）実態調査報告書の作成
若年性認知症の特性を踏まえた効果的な支援策を推進するため、調査結果を取りまとめた実態調査報告書を作成し、関係機関に配付した。今後、青森県健康福祉部高齢福祉保険課のホームページと、こころすこやか財団のホームページに報告書を掲載する予定。

| 月 | 事業の流れ | 行動計画 |
|---|---|---|
| R3．5．6 | 委託契約 | 調査の実施にあたり、青森県と契約締結。 |
| R3．5～6 | 調査内容の検討 | 青森県及び青森県若年性認知症総合支援センターで調査内容を検討。 |
| R3．6．30～ R3．7．31 | 一次調査実施 | 医療機関や事業所を対象とした調査の実施。 |
| R3．8．2～ R3．8．15 | | 医療機関を対象に再調査の実施。 |
| R3．9．1～ R3．11．30 | 二次調査実施 | 一次調査で若年性認知症の人がいると回答した医療機関や事業所等を経由し、本人・家族等へ調査票を配布。 |
| R3．11～R4．1 | 結果の集計・分析 | 青森県若年性認知症総合支援センターにて調査結果を集計・分析。 |
| R4．2．15 | 結果の集計・分析 | 調査結果検討会の開催。 |
| R4．3月下旬 | 調査結果の公表 | 全体版報告書を 100 部作成、概要版報告書を 2,000 部作成し、調査結果を公表。 |

# ◆障害者の作品展示

報告担当者　代表理事　松倉　典子

【報告概要】

障害者の創作した美術作品を公開する場を設けた。また、その美術作品を通して、地域住民やその他の方に対し、展示作品の説明、紹介を行い、障害への理解・認識を促進するための事業を行う予定であったが、コロナ禍において、見学者等は全くなかった。

【報告項目】

①障害者の作品展示
②作品見学会の実施
③広報（新規）

【報告内容】

①障害者の作品展示

1）すこやか会館で作品を展示しているが、来場者は全くなかった。

②作品見学会の実施

1）法人で行う各研修会を利用し、来場者に対して作品紹介・説明等を行なう予定をしていたが、コロナ禍の影響を受け、研修、事例検討会についても WEB 開催となったため、研修に伴う来場者はなかった。

2）事前予約を受付け、見学会を実施

| 見学日 | 見学者所属 | 人数 |
| --- | --- | --- |
| R３．８．４ | 東北メディカル学院<br>作業療法学科 | 教員２名<br>生徒８名 |

③広報（新規）

コロナ禍のため広報活動に力を入れることはできなかった。

# ◆障害者・高齢者・認知症者の福祉に関する研修会、講演会、イベントの開催

報告担当者　代表理事　松倉　典子

【報告概要】

障害者や高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、地域住民等の理解や協力を促進するために、イベントや講演会等を実施した。

【報告項目】

①障害者、高齢者、認知症者の地域生活支援に関する研修会を開催し、地域住民、公的機関等との連携、協働による地域福祉のネットワークづくりを推進する。
②高齢者・障害者を支える家族、専門職員、一般の方を対象とした講習会等の実施
③障害者、高齢者、認知症者への偏見を除去し、地域住民との交流を図るためのイベント等を開催

【報告内容】

①～③共通

障害者、高齢者、認知症者の地域生活支援に関する研修会及び障害者、高齢者を支える家族、専門職員、一般の方を対象とした講演会の実施並びに障害者、高齢者、認知症者への偏見除去・地域交流を図るためのイベント等を開催した。

1）障害者、高齢者、認知症者を支援するための講座の実施

・認知症サポーター養成講座の実施

今年度は新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、例年実施している独自開催の田面木小学校での実施はされなかった。例年であれば八戸市から依頼があるが、今年度はなかった。しかし、八戸市からの依頼で認知症サポーターステップアップ講座の一部を担当。

| 実施日 | 講演内容 | 対象者 |
|---|---|---|
| R３．１１．１５ | 認知症サポーターステップアップ講座<br>テーマ<br>「認知症の理解と実際の対応について」 | 認知症サポーター養成講座<br>受講済者　　１２名 |

・障害や疾病に対する理解促進、障害者の継続した地域生活の為の連携等を目的とした各研修会の実施

| 実施日 | 講演内容 | 対象者 |
|---|---|---|
| R４．２．７ | 障害者サポーター養成講座<br>ZOOM によるオンライン形式で実施 | 八戸学院大学　１１名<br>短期大学幼児保育学科　１名<br>人間健康学科　７名 |

2）講演会の開催

| 実施月日 | 実施内容 | 参加者 |
|---|---|---|
| R3. 12. 7 | テーマ「災害時の福祉支援　～今ある暮らしを考えて～」<br>講師　八戸学院大学短期大学部　介護福祉学科<br>准教授　鳴海　孝彦　氏<br>・ZOOM によるオンライン講演会の形式で実施 | ３４団体 |
| R4. 3. 26 | テーマ「多様な老いを支える」<br>講師　青森県立保健大学　健康福祉学部　社会福祉学科<br>教授　児玉　寛子　氏<br>・ZOOM によるオンライン講演会の形式で実施 | 21 団体 |

3）イベントの開催

・今年度は新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、例年実施しているすこやか祭り、もちつき大会は中止となった。

4）八戸市主催「認知症フォーラム」への参加

・今年度は新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、例年実施しているはちのへ認知症フォーラムは中止となった。

# ◆介護予防

報告担当者　代表理事　松倉　典子

【報告概要】

地域の方一人ひとりが健康維持について高い意識をもち、仲間づくりをすることで、高齢者の閉じこもりを予防し、要介護状態になることを予防することを目的としていたが、令和３年度において、介護予防教室の依頼はなかった。しかし、南部町から依頼を受け認知症セミナーを実施（障害者・高齢者・認知症者の福祉に関する研修会、講演会、イベントの開催で報告）予防の重要性について講義内容に組み込んだ。

【報告項目】

①地域住民を対象に介護予防に繋がるプログラムを実施

【報告内容】

①地域住民を対象に介護予防に繋がるプログラムを実施

1）今年度地域住民を対象とした介護予防教室の実施はなかった。

# ◆成年後見制度の利用に関する支援

報告担当者　代表理事　松倉　典子

【報告概要】

個人の尊厳を重視する権利擁護活動において、権利擁護の推進を図ることを目的とし、スタッフの後見人活動を支援した。

【報告項目】

①法人スタッフの権利擁護活動を支援
②成年後見制度利用相談支援

【報告内容】

①法人スタッフの権利擁護活動を支援

「ぱーとなー青森」に所属する法人スタッフ１名の後見活動を支援した。

| 対象者 | 実施内容 | 登記 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 知的障害者　女性　60 歳代 | 後見事務 | H24．12．14 | 松倉 |

②成年後見制度利用相談支援

法人全体で成年後見制度利用に関係する相談は、令和３年度において０件。

# ◆もの忘れ検診機器の貸出

報告担当者　松倉　典子

【報告概要】

認知症の早期発見早期受診を目的として、もの忘れ検診機器の貸し出しを行うことで、もの忘れ検診をより普及した。

【報告項目】

①タッチパネル式もの忘れ検診機器の貸出
②もの忘れ検診機器の点検

【報告内容】

①タッチパネル式の物忘れ検診機器を市町村等へ貸出
今年度の貸し出しはなかった。
貸出台数：０台（前年度実績４台）

②タッチパネル検診機器の点検

| 月 | 実施内容 |
|---|---|
| 随時 | タッチパネル機器とプリンターの点検 |

## ◆認知症徘徊 SOS 模擬訓練

報告担当者　小笠原　裕美子

【報告概要】

田面木地区社会福祉協議会と協力し、例年認知症徘徊模擬訓練を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、昨年に引き続き訓練実施は見送りとなっている。

しかし、平成 20 年より田面木地区に根差した活動として実施してきており、この活動が途切れる事のないよう地域の各団体、近隣福祉施設、行政とのつながりを継続していけるよう調整を行った。

【報告項目】

①田面木地区で認知症徘徊 SOS 模擬訓練の実施（中止）

②田面木地区以外の地区におけるネットワークの事業紹介と啓発活動並びに立ち上げ協力、組織化への支援を実施

【報告内容】

①田面木地区で認知症徘徊 SOS 模擬訓練の実施（中止）

8 月中旬以降、市内の新型コロナウイルス感染者が増加傾向となり、複数のクラスターが発生していた事や、市の関連施設が休館となっていた事等から主催者と開催について検討、総合的に判断し中止としている。

1）中止についての案内を関係各所に配布

徘徊模擬訓練を来年度以降も継続した取り組みとして関係者に認識して頂けるよう、関係各所へ中止のお知らせを配布した。

| 実施日 | 実施内容 | 備考 |
| --- | --- | --- |
| R３．８．23 | 田面木地区社会福祉協議会会長と今年度の開催について検討し、中止の判断となる。関係機関へ中止の案内を配布する。 | - |
| R３．８．30 | 中止のお知らせ文書作成、配布先の確認 | - |
| R３．９．９ | 文書印刷、配布準備<br>文書発送（27 箇所） | - |

2）認知症サポーター養成講座の実施（中止）

教育施設におけるクラスターや地域の感染状況を考慮し、今年度の養成講座の開催は中止としている。

②田面木地区以外の地区におけるネットワークの事業紹介と啓発活動並びに立ち上げ協力、組織化への支援を実施支援予定としていたが、依頼がなかったため実施しなかった。

# ◆自動販売機等の設置及び不動産貸付事業及びレストランサービス事業

報告担当者　代表理事　松倉典子

【報告概要】

収益事業で収入を得ることにより、その収益の５０パーセントを公益事業へのみなし寄付することで、公益目的事業の運営資金とするために事業を行った。

【報告項目】

①自動販売機収入
②公衆電話収入
③不動産貸付事業収入
④レストランサービス事業収入

【報告内容】

①自動販売機収入

| 設置場所 | 実施内容 |
|---|---|
| 八戸市大字田面木字赤坂１６－８<br>地域生活支援センター青明舎前 | ・販売機周辺の清掃<br>・入金確認 |

②公衆電話収入

| 設置場所 | 実施内容 |
|---|---|
| 八戸市大字田面木字松長根 5-4<br>グループホーム「５番館」内 | ・集金<br>・入金<br>・電話機のメンテナンス |
| 八戸市大字田面木字赤坂 35-9<br>グループホーム「青風荘」内 | |
| 八戸市大字田面木字赤坂 35-35<br>障害者生活訓練施設「青山荘」内 | |

③不動産貸付事業収入

1）屋外広告用看板スペース貸出し収入

| 貸出場所 | 実施内容 |
|---|---|
| 八戸市大字田面木字赤坂 16-8<br>地域生活支援センター青明舎　建物壁面 | ・借主（医療法人青仁会）との打合せ<br>・４月～１１月分　入金確認 |

2）土地の賃貸借による収入

| 設置場所 | 実施内容 |
|---|---|
| 八戸市大字田面木字赤坂 22-1 | ・契約内容の確認打合せ<br>・入金確認<br>・支払確認 |
| 八戸市大字田面木字赤坂 22-2 | |
| 八戸市大字田面木字赤坂 24-1 | |
| 八戸市大字田面木字赤坂 24-2 | |
| 八戸市大字田面木字赤坂 24-4 | |
| 八戸市大字田面木字赤坂 24-5 | |

④　レストランサービス事業収入

| 提供事業所 | 実施内容 |
|---|---|
| グループホーム　青風荘 | ・食数確認（毎週金曜日）<br>・請求書発行（毎月５日）<br>・入金確認（毎月 10 日）<br>・食材の買出し（毎週月・金曜日） |
| 障害者生活訓練施設　青山荘 | |
| グループホーム　南寿の里 | |